

教 育 研 究 業 績 書

令和 5 年 3 月 31 日

氏名 早坂 三郎 印

研究分野	研究内容のキーワード	
社会心理学 産業・組織心理学 特別支援教育	人間関係、コミュニケーション、カウンセリングマインド、事故と不注意、集団とリーダーシップ、災害時の人間行動、利他的行動、IT 及び AI 化社会と国際化、世代間交流、レジリエンス。	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例	平成 18 年 4 月 ～平成 27 年 3 月 平成 23 年 7 月 ～	「人間関係論」及び「産業・組織心理学」の授業用に作成・編集したプリントと資料を配布し、学生とのディスカッションを組み入れた教育方法を採用することにより受講態度と理解度が向上し、学生アンケート結果における満足度評価も高まった。以降、毎年改訂。 緊急人材育成・就職支援基金事業による職業訓練・基礎演習コースを運営・管理すると共に「人間関係」と「コミュニケーション」及び「国際社会と日本」等の講師を担当。以降、毎年改訂。
2. 作成した教科書、教材	平成 18 年以降 ～平成 27 年 3 月 平成 24 年 5 月 ～ 令和元年 4 月 ～	「人間関係論」「産業・組織心理学」「社会心理学」「産業心理学特論」「組織心理学特論」「特別支援教育特論」「コミュニケーション論」「社会人としてのマナー」「国際社会と日本」の講義用補助教材を各講義毎に作成。以降、毎年度改訂している。 「高等学校におけるコミュニケーション授業～高大連携による新たな試み～」で授業案を公表した。 全担当授業の遠隔授業用資料を作成し、対面及び遠隔授業に対応。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	平成 22 年 12 月～	大阪府立茨田高等学校コミュニケーションプロジェクト委員会委員長として、授業に先立ち教員研修の講師並びに同企画を担当し、平成 23 年度から高校 2 年生に配当の授業及びこの授業全体の企画・調整を担当している。 また、社会人基礎力として必須のコミュニケーション力と人間関係の構築と展開についての研究

		及び日本人間関係学会の資格「人間関係士」を取得し、平成 23 年 8 月より、同資格取得研修講座の「人間関係の基礎(必修)」を担当。更には、特別支援教育支援員研修講座にて「コミュニケーションとカウンセリングマインドについて」と「SST と認知行動療法について」の講習を担当し、これらの分野での実践性を高め、社会貢献も果たしている。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	昭和 49 年 3 月 昭和 49 年 3 月 平成 24 年 1 月 平成 27 年 12 月	高等学校教諭 1 種免許状（社会） 中学校教諭 1 種免許状（社会） 「人間関係士」 第 10 回全国手話検定試験 5 級合格
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成 23 年 8 月～ 平成 25 年 3 月～ 令和元年 4 月～	日本人間関係学会における「人間関係士」資格認定委員会委員に就任し、資格認定のための資格研修講座で「人間関係の基礎（必修）、集団理論」講師を担当。以後平成 27(2015)年度まで毎年担当。 また、同学会資格委員会と研修委員会を統括する副会長（現在は理事長）として各カテゴリー毎のシラバスを作成したが、これらの集大成としての「人間関係ハンドブック」を監修し、平成 29 年 3 月に発刊した。 全担当授業用のオンライン授業用資料・教材を作成した。
4. その他	平成 25 年 4 月 平成 25 年 11 月	芦屋大学名誉教授の称号を受く。 大阪府教育委員会より教育功労表彰を受く。
研究業績等に関する事項		

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 人間関係のためのコミュニケーションについて	単著	平成 16 年 11 月	至文堂、現代のエスプリ第 448 号・人間関係力シリーズⅡ・「人間関係の回復と創造」pp.167-176.	変革を遂げつつある現代の荒廃的諸現象をもたらしている背景に、群れる本性に逆らうが如き人間関係の構築と展開過程に阻害要因が数多く考えられる中、コミュニケーション不足をその主たる要因として捉え、家庭・学校・職場、そして地域社会及びこれからの社会という 4 つの空間あるいは状況からコミュニケーションについて考察し、改善手段としてのカウンセリング的態度の必要性を指摘した。
2. 記念公演会講演「カウンセリングマインドによる社会化をめざして」	単著	平成 22 年 3 月	北勢病院 50 周年記念誌、特定医療法人北勢会北勢病院 pp. 104－117.	医療従事者・精神保健関係者・患者及び家族を対象とした専門的、且つ実践的内容の記念講演に基づき著述した。これからの社会で、また各施設で求められる利他的思考による「支え合い共に生きる」姿勢の涵養を目的に、そのための方法についてカウンセリングの基本的態度及び S S T や認知行動療法の理論の解説に基づき、予てから提唱してきたカウンセリングマインドによるコミュニケーションと社会的行動の展開が、思いやりのある人間関係の構築と展開並びに脳の活性化をもたらせること、ひいてはハビリテーションの考え方にまで言及した。
3. 平成 24 年度「コミュニケーション総合」授業のまとめ	共著 編集・執筆	平成 25 年 8 月	大阪府立茨田高等学校 pp. 2-5、pp. 8-15、pp. 34-37.	財団法人教育研究振興会「教育の喫緊の課題に対応した研究助成」に応募し採択された研究の成果報告書である。高等学校での「コミュニケーション総合」授業の全担当者による

				平成 24 年度の学習指導内容と本プロジェクトの背景・目的、そして全校的取組とその結果の評価及び考察である。
4. 人間関係士ハンドブック	監修・分担共著	平成 29 年 3 月	福村出版 第 1 章第 2 節・第 4 節・第 8 節、第 2 章第 2 節	日本人間関係学会の認定資格 99「人間関係士」養成講座向け並びに大学及び一般用の人間関係の基礎から応用・実践までを網羅したハンドブックである。監修者の一人として、また第 1 章第 2 節人間関係の構築とコミュニケーション、第 1 章第 4 節人間関係と集団の基礎理論、第 1 章第 8 節利他的行動とレジリアンス、第 2 章第 2 節対人関係の心理、以上を執筆担当した。
5. 「阪神・淡路大震災と復興支援 (The Great Hanshin-Awaji Earthquake and Revitalization Support)」	単著	平成 30 年 2 月	第 2 回国立中正大学社会企業研究センター国際学術会議「社会的弱者に対する就業や復興に向けての地域社会づくり～ソーシャル・インクルージョンに向けて～」プログラム・発表要旨集 pp. 117-124	1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分には、M7.3 の阪神淡路大地震が発生し、死者が 6,643 人に及んだが、また 2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分には M9.0 という国内観測史上最大の東北地方太平洋沖地震が発生し、強い揺れや津波・火災、そして原子力発電所事故により当初の避難者が約 46 万人、そして死者・行方不明者が約 1 万 8 千 5 百人に及ぶ壊滅的被害が生じた。その後、2016 年 4 月 14 日・16 日以降の最大 M7.3 の他余震が頻発した熊本地震が発生した。本論では災害復興状況、特に仮設住宅での高齢者の独居死(孤独死)の状況と併せて現代の高齢独居世帯の問題などから人間の持つ「内なる力への支援」についての資料と考察から提言を行うものである。
(学術論文)				

1. 企業に於ける人間関係を基盤とした管理と教育について(修士論文)	単著	昭和51年3月		職業分析及び雇用と人事考課を基盤に集団・組織の精神的環境づくりとしての人間関係形成と維持の重要性と方法について考察した。また、リーダーシップとその教育、企業人教育と向上欲求の整合化、更には生涯に亘る人間関係スキルとパーソナリティの育成及びそのための企業枠に止まらない社会的教育機関の充実による人間形成の重要性についても考究した。
2. 事故と注意	単著	昭和62年1月	福山重一博士喜寿記念論文集（続） pp. 675-692.	事故発生原因として、とにかくケース毎に異なる複合的諸要因を隠し主要因として祭りあげられる“不注意“について、注意の生理学的・認知論的解明のもとにその機序と現象の諸様相から考察した。 注意と不注意は随伴現象であり、この視点に立脚した安全対策の構築が不可欠であるとの視座を提供したものである。
3. 内なる力への支援	単著	平成28年3月	甲子園短期大学紀要34号 pp. 65-70.	本論は、阪神淡路大震災以降の仮設住宅での孤独死の状況を比較・検証し、併せて現代社会での自殺や高齢化社会の問題状況から人間の持つ「内なる力」への支援についての提言を行ったものである。人間関係とコミュニケーション活動は男性に乏しく、仮設住宅などにおける孤独死の割合も、男性が凡そ約7割を占めた。困難の中で跳ね返す力を持ち、更には利他的行動を解発する事例は多く見られるが、傾聴によりレジリエンスを解発できるとの認識を共有し、ソーシャルワークを集団及び社会や地域にも展開し、援助・支援活動を広めることが求められる。
4. 変革社会におけるコミュニケーションと人間	単著	令和4年3月	甲子園短期大学紀要40号 pp. 41-50.	巨大地震や気候変動による自然災害の激甚化、エネルギー革新、国際紛

関係について				争と政治的・経済産業的変革、AI 化そして新型コロナウイルス禍などが大きなうねりとなって我々に対応行動の変容を求めてきている社会状況の理解のもと、求められるこれからの新しい生活様式の中でのコミュニケーションと人間関係について考察を試みた。
(研究発表)				
1. 災害時における人間行動	単著	平成7年11月	日本人間関係学会 第3回大会プログラム・発表要旨集	阪神・淡路大震災後、変容する人間行動を時系的に区分し、特徴づけることにより災害時行動の構成要因とその対応について考察した。
2. 災害時における人間行動 (2)	単著	平成8年9月	日本応用心理学会 第63回大会発表 論文集	震災後一年半に亘る避難所・応急仮設住宅での行動を、マスローA.H.の欲求の階層説と併せて考察し、また避難所、更には仮設住宅への移転に際しての「心理的抵抗」と「組織化の問題」についても考察した。
3. 災害時における人間行動 (3)	単著	平成8年11月	日本人間関係学会 第4回大会プログラム・発表要旨集	避難所・仮設住宅での時間的推移による集団・組織の特徴とそのリーダーシップスタイルについて、また「(災害) 耐性」をも培う自主防災組織について考察した。
4. 災害時における人間行動 (4)	単著	平成9年8月	日本応用心理学会 第64回大会発表 論文集	構造的整備や自立復興が進む中での復興格差がもたらす不安やストレスなどの影響を、仮設住宅における独居死者数の資料から分析・検討し、これに対するサポートのあり方について考察した。
5. 災害時における人間行動 (5)	単著	平成9年11月	日本人間関係学会 第5回大会プログラム・発表要旨集	仮設住宅における集団の構造と機能の分析からその発達・成熟現象と高齢化社会とを重ね合わせ、機能的及び社会・情緒的サポートの重要性について考察した。

6. 災害時における人間行動 (6)	単著	平成 10 年 9 月	日本応用心理学会 第 65 回大会発表 論文集	地震予知情報の先駆的研究として第 4 の情報内容である「発生確率」の表現と、その数値への評価印象についての調査から数値の行動への影響について考察を試みた。
7. 災害時における人間行動 (7)	共著	平成 10 年 11 月	日本人間関係学会 第 6 回大会プログラム・発表要旨集	継続研究である「災害時における人間行動 (4)」のそのⅡにあたるもので、仮設住宅における動機づけと不安について独居死亡者の統計的分析から人間関係による主観的・認知的評価機能の向上と主体的活動の関連について考察した。
8. 災害時における人間行動 (8)	単著	平成 11 年 9 月	日本応用心理学会 第 66 回大会発表 論文集	被災地での高齢化・独居生活化を背景とする「独居死」と、日本特有の人口変動現象として進行している少子・高齢化に伴う単身高齢化における「独居死」を、兵庫県警の資料と大都市における単身生活者の自宅死亡例の監察医による検案例の資料により対比・検討した。死亡者数がこの 10 年で約 3 倍に増え、その約 7 割が男性の前期高齢者との傾向を指摘した。また、自殺についても同様の傾向があり、社会的活動とより良く生きるための対策の必要性について考察した。
9. 災害予測と対応行動	単著	平成 12 年 9 月	日本人間関係学会 第 8 回大会プログラム・発表要旨集	「何時、何処で、何が、どの程度の規模」で発生するかについて、予知困難な震災に比べ、「何時、何が」が特定された「Y2K問題」と、そのための準備・対応行動についてのアンケート調査から、危険予知情報の理解と、これに基づく対応行動、及びその後の態度変容への影響について考察した。対応行動が採られるか否かについて性差はあるが、問題への情報や経験、そして発生予想数値を

				検討した。また、デマや噂及び情報による判断の中央化傾向についても指摘した。
10. 携帯電話の人間関係への影響について	単著	平成 13 年 9 月	日本応用心理学会第 68 回大会発表論文集	コミュニケーション手段のツールである携帯電話の機能や実用性の功罪が社会生活や人間関係の構築と展開にどのような影響を与えてきているかのアンケート調査により考察を試みた。携帯電話により気が短くなったが人間関係は広がったとの傾向が見られた。それは、道具的・表出的コミュニケーションなどによる効果と考えられた。反面、性差はあるが運転などにおけるリスクテイク傾向と使用マナーの必要性が認められた。
11. シンポジウム「これまでの そして これからの人間関係」	単著	平成 13 年 9 月	日本人間関係学会第 9 回大会プログラム・発表要旨集	様々な領域での変革が進む新しい時代への過渡期にあつて、人間関係についての考察を、これまでの地域社会を基盤とした人間関係と、コミュニケーションの側面から見て高度情報化及びマスメディアの発達により変容しつつあるこれからの人間関係への影響と、その認知についての視点から 4 人のシンポジストからの提言と指定討論者によるシンポジウムを企画・コーディネートし、総括した。
12. 記念シンポジウム「信頼的人間関係の創造」ー期待される父親役割ー	単著	平成 14 年 10 月	日本人間関係学会 10 周年記念大会プログラム・発表要旨集	社会的荒廃現象の原因を挙げ、シンポジストとして家庭、特に父親の役割の内容と重要性について、各発達段階における母親との役割対比から相互的機能について考察し、行動の観察・模倣対象としての家族の存在と役割、その中での自己表現の機会と受容・評価がコミュニケーション機能の発達のみならず欲求不満耐性を形成し、それが人間関係の構築と

				展開に最も重要であることを指摘した。
13. 日本人間関係学会第9回大会報告	単著	平成 14 年 10 月	人間関係学研究第 9 巻第 1 号日本人間関係学会 10 周年記念号	大会委員長をつとめた日本人間関係学会第 9 回大会のプレコンgresイベント・鏑幹八郎先生の公開講演に始まり、最終プログラムとなったシンポジウム「これまでの そしてこれからの人間関係」までの全てのプログラム内容並びに学会総会や大会運営について記録し、総括した報告である。
14. 表現行動の重要性についての再考察	単著	平成 15 年 11 月	日本人間関係学会第 11 回大会論文集	キレル、不登校、いじめ、暴行・虐待などの反・非社会的行動の激化と低年齢化に見られる社会的荒廃現象への対応について、①家庭内のコミュニケーション機会の低下、子育て不安の増大②テレビやゲームによる会話機会の減少と脳の不活性化③学校社会での不適応④産業社会での就業機会及び職務満足度の低下⑤災害パニック時の状況変化の影響。以上の視点からの原因分析に基づき自己表現と受容・評価のスパイラル的展開の重要性について再考察を試みたものである。
15. 日本人間関係学会関西地区会報告	単著	平成 15 年 11 月	人間関係学研究第 10 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会設立の経緯と趣旨及びその名称・会則・運営等についての審議・結果の概要、そして第 1 回目の地区会研修会で発表された「北海道浦河の『ベテルの家』について」の内容と質疑応答を要約した報告である。
16. 「人間関係の構築と展開のためのコミュニケーションの重要性について」	単著	平成 16 年 7 月	第 5 回関西地区会研修会(樟蔭東女子短期大学)	日本のコンテキスト及び脳の構造と機能についての解説のもと「人間関係とコミュニケーション」のテーマで家庭、学校、職場、及びこれからの高齢化社会の 4 つの視点からコミ

				ユニケーションの重要性とその影響力について発表した。
17. 日本人間関係学会関西地区会活動報告	単著	平成 16 年 12 月	人間関係学研究 第 11 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 2 回「ワークショップ・援助のあり方、地域生活支援センター・アジサイでのケースから」神谷恭子、第 3 回「信頼関係の裏側一言語表現の磨き方」小倉美津子、第 4 回「ベテルの家メンバーを踏まえた北勢会社会復帰施設」天春卓也、第 5 回「人間関係の構築と展開のためのコミュニケーションの重要性について」早坂三郎の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
18. 日本人間関係学会関西地区会活動報告	単著	平成 17 年 12 月	人間関係学研究 第 12 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 6 回「キャリア教育の実践と課題」佐々木かなこ、第 7 回「ソーシャルワーク課題として conflict の探求ー＜生活平和＞概念とその技術へのささやかな試みー」島本健二、第 8 回「サイコドラマとは」杉山舞の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
19. 日本人間関係学会関西地区会活動報告	単著	平成 18 年 12 月	人間関係学研究 第 13 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 9 回「幼年期の遊びによるコミュニケーションについて」伊賀吉郎、第 10 回記念研修会「放送局の人間模様～あるアナウンサー経験者の話～」講師：緒方健吾毎日放送総務局総務部専任部長、第 11 回「ひきこもる若者と家族の現状、そしてこれからの将来像」講師：濱中美貴子姫路こころの事業団代表の発表及び講演のまとめと同会活動概要についての報告である。
20. 「アスペルガー症候群	単著	平成 19 年 3 月	第 13 回関西地区	特別支援教育コーディネーターの役

について 一人間関係の 視点からー」			会研修会(芦屋市 立大原集会所)	割・機能と共に、環境として存在する周囲の理解と協力・支援のあり方について考えるために現代の人間関係を阻害している要因は、アスペルガー症候群の人たちにとっても生活しにくい環境であることを、コミュニケーション・社会的比較・コンテクスト・パーソナルスペース・集団の機能と影響力などから解説し、カウンセリングマインドを環境として存在している我々が持たなければならないことを、またこの対応のための認知行動療法についても解説した。
21. 日本人間関係学会関西地区会研修・活動報告	単著	平成 19 年 12 月	人間関係学研究 第 14 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 12 回「モンテッソーリの教育思想とその城見ヶ丘保育園での展開」寺脇誠一郎、第 13 回「アスペルガー症候群について一人間関係の構築の視点からー」早坂三郎、第 14 回「家庭の多様化と形骸化：こどもの教育を担う家族関係の崩壊と消滅」西本望、「転生に関する研究と人間関係」岡本聡の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
22. SST と認知行動療法の統合について	単著	平成 20 年 10 月	日本人間関係学会 第 16 回大会プログラム・発表要旨集	コミュニケーションと人間関係スキルの修得を妨げている現代社会の状況分析から、人間関係を円滑にする能力とスキル向上のための社会的スキルトレーニング(SST)と認知行動療法(CBT)の必要性を指摘し、両者の理論及び展開過程を具体的に比較・検討し、その類似性から受容と共感・自己開示そして行動への聴くことに始まるカウンセリングマインドによる支援を中心とした両者の統合

				化について、更にはマインドフルネスとアサーティブな反応行動を培うことの重要性について考察、指摘した。
23. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成 20 年 12 月	人間関係学研究 第 15 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 15 回「第三者評価における人間関係について」村田道彦、「子どもをとり巻く人的環境力の実際ー乳幼児における保育実践からー」大盛幸子、第 16 回「保育現場における人間関係について」安家比呂志、「文明に貢献した偉人たちの生育過程」栗山昭子、第 17 回「『障害像のるつぼ』という治療構造を考える」奥村務、「創造的人間関係-菅江真澄と語り旅」佐々木かなこ、第 18 回「より魅力的な授業を目指して-人間関係を手がかりにして-」山田理恵子、「福祉の心へのアプローチの勧め」谷川和昭の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
24. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成 21 年 12 月	人間関係学研究 第 16 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての第 19 回「短期入所事業の利用者における成功事例について」天春卓也、「生活と生涯学習について」伊賀吉郎、第 20 回「社会福祉教育におけるデス・エデュケーションの試み」岡崎利治、「Maria Montessori Method」寺脇誠一郎、第 21 回「有料老人ホームの現在ー介護付有料老人ホームを中心にー」仲田勝美「スクールカウンセラーの取り組みから」佐藤貴志、第 22 回「支援者と支援を受ける者のニーズ認識における『人間関係』の影響要因についてー身体障害者福祉施設利用者と施設職員へのインタビュー調査か

				らー」永野典詞、「不況時における不動産業界」谷川俊治の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
25. 人間関係を基盤としたキャリア教育	単著	平成 22 年 10 月	日本人間関係学会第 18 回大会発表要旨集	現代のニート・フリーターに代表される若者の就職状況の背景を探ると共に職業指導からキャリア教育への変遷をその代表的研究者や教育行政者の学説を辿り、単なる求職者と職の世界とのマッチングに終始しない、園児・児童から中年に至る生涯教育として職業観・勤労観を育成するキャリア教育推進の重要性を指摘し、併せて自己理解と職業への適性についてのテスト開発についても考究した。
26. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成 22 年 12 月	人間関係学研究第 17 巻第 1 号	日本人間関係学会関西地区会を 1 年間主宰しての、即ち、第 23 回「介護福祉士のコミュニケーションリーダーとしての役割に関する一考察ー外国人の介護福祉士導入に関するアンケート調査からー」釜野鉄平、「『異文化における人間関係力』ーイザベラ・バードを通してー」佐々木かなこ、第 24 回「このソフトクリームを召し上がれ!!」松原京子、第 25 回「非行少年に見る思春期の自立」加藤誠之、「高齢者福祉政策におけるソーシャルワークの分断化と福祉労働の分業化に関する問題」濱島淑恵、第 26 回「A question remains 廃仏毀釈」神谷恭子、「虚弱高齢者と地域住民との関係を構築する要因についての考察ー福祉教育の視点よりー」釜野鉄平の各発表のまとめと同会活動概要についての報告である。
27. 「災害復興での独居死	単著	平成 23 年 3	第29回関西地区会	阪神・淡路大地震の特に仮設住宅に

と少子高齢化社会における自殺について」		月	研究会(大谷大学・博綜館)	おける高齢者の独居死と国内自殺者の統計分析から人間関係並びにコミュニケーションの重要性を改めて指摘した。わが国の急進する少子高齢化と共に自殺率は世界第6位となり、65歳から79歳の自殺者数が増え、災害高齢者の独居死と自殺者には性差・年齢・動機等の共通性を見ることが出来た。また、子どもの遊びや性役割の変化、そして人間関係力やコミュニケーション力を涵養しない社会環境が今後も懸念されることを指摘した。
28. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成23年3月	人間関係学研究第17巻第2号	日本人間関係学会関西地区会を3回に亘り主宰しての、即ち、第27回「事業を通して拓がる人とのつながり」中村弘樹、「韓国福祉・医療事業調査報告第一報」三好明夫、第28回「卒業研究教育の実践をめぐる諸課題」谷川 和昭、「保育実習に対する学生の意識について-自己評価から見える実習指導のあり方-」大盛幸子、第29回「精神科医療におけるさまざまな器-制度、構造、物、そして人-」奥村務、「災害復興での独居死と少子高齢化社会における自殺について」早坂三郎の各発表のまとめと同会活動概要報告である。
29. 記念シンポジウム：「東日本大震災への復興支援について」の中の「復興支援への阪神・淡路大震災からの考察」	単著	平成23年6月	第30回記念関西地区会研究会（京都ノートルダム女子大学）	復興支援について、阪神・淡路大地震からの災害復興活動過程状況、特に仮設住宅における高齢者の独居死と人間関係並びにコミュニケーションを基軸にした考察と提言をした。社会的役割や経済力の喪失などが無感覚などをもたらし、不安と悲しみや悲嘆・絶望感は混乱や恨みとなり、やがて個人差はあるものの新たな洞

				察により回復や他者支援へと推移する傾向が観察されたが、そこに他者を支援しようとする動機付けと目的・手段の認識の変容が自我の回復に繋がるとの指摘をした。
30. 震災及び高齢化社会における独居死と自殺について	単著	平成 23 年 8 月	日本応用心理学会 第 78 回大会発表 論文集	阪神・淡路大地震発生後 4 年半に亘る「災害時における人間行動」の一連の論者の発表からの復興状況、特に仮設住宅での独居死についてと東日本大震災の復興に向けた活動報道等から独居死に関する資料、そして自殺統計を比較検討し考察した。併せて平成 10 年以降の自殺者の統計から、その対策について考察した。「教育と雇用」は、希望を育み展開させる重要な構成要因であるとの指摘をした。また、心のケアとして「セルフ・ケア」への支援や「レジリエンスモデル」に注目し、そこに他者を支援しようとする動機づけと目的・手段についての認識の変容が介在する場が多いとの考察も述べた。
31. 「地震後の行動特徴と支援について」	単著	平成 23 年 11 月	日本人間関係学会 第 19 回大会発表 要旨集	被災地の状況推移と阪神・淡路大地震の復興過程、特に仮設住宅での独居死並びに毎年 3 万人を超えているわが国の自殺者統計から地震後の行動特徴の理解と支援について考察した。悲しみと否定の時期からの独居死あるいは自殺のため相談所等の設置でコミュニティ拠点づくりの必要性を訴え、コミュニティの分断と地域への粘着度の低下は希望と動機づけを低下させること、また障害者や高齢者を受け入れている「福祉避難所」や父子家庭の深刻な事態を指摘した。
32. 日本人間関係学会関	単著	平成 24 年 6 月	人間関係学研究	第 30 回記念関西地区会研究会での第

西地区会研究会活動報告			第 18 巻第 1 号	1 部 記念シンポジウム「東日本大震災への復興支援について」で発表された①「引き裂かれるコミュニティー、踏みにじられる尊厳—Fukushima で取材した東日本大震災—」石川威一郎氏（河北新報社東京支社編集部）、②「石巻避難所での支援活動」奥村務会員（三重県心のケアチーム第 14 班）、③「復興支援のための関西経済の役割」明野欣市氏（IT ガイドシステム推進協議会）、④「支援への阪神・淡路大震災からの考察」早坂三郎会員及び 第Ⅱ部 記念講演：「社会福祉と人間関係—いかに関係づくりを進めるか—」白澤政和先生（桜美林大学大学院老年学研究科教授・阪市立大学名誉教授）の発表と講演の概要報告である。
33. 高校生のコミュニケーション力向上プロジェクトについて	単著	平成 24 年 8 月	日本人間関係学会 20 周年記念大会プログラム・発表要旨集	高等学校でのコミュニケーション関連の授業及び全校的教育活動の結果を hyper-QU による年度始めと終わりの比較による平成 23 年度の評価と考察であり、聴いてもらうことにより自分が素直になり、そして利他的になれる傾向について指摘した。
34. 日本人間関係学会第 21 回全国大会企画シンポジウム「人間関係、古くて新しいテーマ、この面白い世界—各分野から学ぶ人間関係」での、「学校での人間関係 - いじめ・体罰から考える人間関係」	単著	平成 25 年 8 月	日本人間関係学会 第 21 回全国大会 一步前へプログラム・発表要旨集	学校での体罰は、背景に子どもの夢、親の期待、学校への世評等多くの付託を背負った指導の先生が、これらに応えることを含め成果が伴わない時に採られ易い。一時的な効果はあろうが繰り返されるとトラウマとなる。逆に、褒められれば快感と結び付き動機づけになるが、これも過ぎれば効果は薄れる。また、いじめは 4 者構図の中での対応と指導が重要となる。人間関係の構成と展開要因

				及び集団の社会的促進と抑制の視点からも捉え直した。
35. 高校生のコミュニケーション力向上プロジェクトについて (2) - 「利他的」に行動できる高校生の育成をめざして-	単著	平成 25 年 11 月	日本人間関係学会 第 21 回全国大会 プログラム・発表要旨集	社会性・異文化性 (国際性)・世代間を通して自己肯定的・積極的・ポジティブになれるためのコミュニケーション能力育成活動の必要性を平成 24 年度の授業及び教育活動による成果を hyper-QU やアンケートにより評価し、考察した。
36. 「人間の内的力と支援について」	単著	平成 26 年 5 月	第42回関西地区会研究会 (芦屋大学)	自然災害や事故、または集団や社会生活におけるストレス等により、われわれは悩み、傷つき、不安や緊張は更にそれらを倍加させ、病的症状や死に至ることもある。他方、こうした困難の中で跳ね返す力を持ち、回復し、更には利他的行動を解発する場合も少なくない。そこで、このレジリエンスとかストレングスなどの捉え方と支援について、先行研究と現象の調査・分析からの考察を試みた発表であった。
37. 日本人間関係学会第 23 回全国大会・大会企画シンポジウム「ソーシャル・インクルージョン (共生社会) に向けて専門職の役割—承認し受容する社会を作るため—」の中で、「学生支援の立場から」	単著	平成 27 年 11 月	日本人間関係学会 第 23 回全国大会 プログラム・発表要旨集	コミュニケーションと人間関係に煩わしさと苦手意識を持つ学生は少なくない。就職と言う関門への対処のためか、従順で依存的な学生群像から、「受容し認め合える共生社会づくり」について利他的に考え、共に生きてゆく姿勢を培うことについて、特性の違いに気づき、自分と違う存在を理解し、認め合い受け容れることをそれぞれの教育段階で経験することが求められる。以上についての学生支援の立場からの考察である。
38. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成 28 年 12 月	人間関係学研究 第 21 巻第 1 号 pp.132—139.	第 45 回関西地区会研究会での、①福地直子会員「現代の教育支援と人材育成の課題を考える」、②山中康平会員「施設におけるリスクマネジメントの現状について」、

				③濱島淑恵会員「就労する家族介護者の「生活運営」問題に関する研究-ワーク・ライフ・バランスの『質』と階層性-」の研究発表概要。第46回関西地区会研究会での①谷川和昭会員「韓国学生からみた介護の仕事への期待-『若い人たちが介護の仕事に就くのに期待していること』の自由記述分析-」、②中川祐志会員「天才と呼ばれるマンガキャラクターの言動から見るアスペルガー的特性について」、③加藤誠之会員「毅然とした生徒指導」の問題点- 定時制高校の生徒指導に学ぶ -」の研究発表概要。第47回関西地区会研究会での①永野典詞会員「本学学生の『こどもフェスティバル』への取り組みにおける人間関係について-学生への人間関係に関する教育・支援のあり方から-」、②釜野鉄平会員「居住型介護施設内で生じる人間関係に関する課題について-介護職員に対する質問紙調査より-」、③佐藤貴志会員「学びの環境づくり支援事業」の研究発表概要。第48回関西地区会研究会での①佐々木かなこ会員「社会人基礎力を育む取り組みを通して-実践報告-」、②大森孝志会員「大阪府立高等学校における首席の役割について」、関西地区会創設50回目の記念研究会を前にした高原正興先生の「現代日本の自殺問題を分析する」の特別講演の概要報告。第49回関西地区会研究会での①寺野雅之会員「-より良い人間関係づくりができる学校文化の創出をめざして-」、②小石信子会員「自閉症スペクトラムを考える～人間関係尺度の作成～」、③宮崎由紀子会員「施設内虐待における振り返り（施設内虐待）」の研究発表概要。第50回記念関西地区会研究会での記念講演での山本克司会員「障害者差別解消法につ
--	--	--	--	--

				いて」及び永野典詞会員「インクルーシブ教育について」、続いての記念研究会での①三好明夫会員「デイサービスにおける認知症高齢者のアクアセラピー効果の検証について」、②松葉知佳会員「精神科病院保護室からグループホームへスタッフの働きかけで改善が見られた一症例」、③富田千晶会員「イタリアの精神医療改革からの学び」の研究発表概要である。
39. 日本人間関係学会関西地区会研究会活動報告	単著	平成 29 年 12 月	人間関係学研究 第 22 巻第 1 号 pp.72－75.	平成 28 年度 1 年間の研究会での研究発表概要の報告である。第 51 回関西地区会研究会での①橋本順子会員「もっと知ろう！もっと使おう！高齢者のサービス」、②大森亮哉会員「障がい者福祉の取り組み～和来の現在～」、③松浦信会員「若年性認知症に関する企業支援の状況－平成 24 年に実施した三重県内での調査からみえてくるもの－」の研究発表概要。第 52 回関西地区会研究会での濱島淑恵会員「地域生活における『生活経営』支援ニューズー日常生活自立支援事業の支援状況と多職種連携の事例より」、②寺野和子会員「支援学校の現状と関係機関との連携について」、③三好明夫会員「認知症ケアに向き合う良質な介護技術のあり方について」の研究発表概要。第 53 回関西地区会研究会では①谷川和昭会員「100 周年の民児委員活動とその状況－兵庫県赤穂市での調査をもとに－」②釜野鉄平会員「高齢者福祉事業に携わる職員の人間関係円滑化に対する取り組みについて」、③佐藤貴志会員「スクールカウンセリングと校内委員会」の研究発表概要。第 54 回関西地区会研究会での①三好明夫会員「介護老人福祉施設における人材確保と人事管理の課題－大阪府内介護老人福祉施設のアンケート調査－」、②山本克司会員「人間関係における高齢者

				の『表現の自由』の意義と調整」、③佐藤貴志会員と渡部貞介会員「精神科病院と介護福祉士」の研究発表概要である。
40. 論説 1「第三者評価で得たこと」	単著	平成 30 年 2 月	一般財団法人短期大学基準協会広報委員会編集・発行、Vol. 80、pp. 2-5.	第三者評価を受審して、その準備からの過程を通じての取り組みにより得られた大学全体としての成果と今後の展望についての報告書である。
41. 阪神・淡路大震災と復興支援	単著	平成 30 年 2 月	第 2 回国立中正大学社会企業研究センター国際学術会議プログラム・発表要旨集 pp.117-123.	阪神・淡路大震災からの復興過程で、特に、高齢男性に独居死が多かったが、他の地域と比較対照し、自殺・事故を含め男性が独居死の約 7 割を占めた統計から、その原因と対応について被災者を支援できる被災者への支援の重要性と人間の持つ「内なる力（レジリエンス）」を高めるサポートについて考察した。
42. 「AI 化社会でも『利他的に生きる』を支えるために」	単著	平成 30 年 9 月	日本福祉図書文献学会第 21 回全国大会 大会プログラム・報告要旨集 pp. 11-14.	人類進化過程での危機と克服へのコミュニケーションと人間関係の果たした役割に関する諸説及び脳の発達と構造・機能の解説と併せて AI 化社会について考察により、これからの超高齢化社会や災害被災地などストレスフルな状況での人間の持つ生理的・心理的な「内なる力」を刺激する支援と環境づくりについて提言した。
43. 「AI 化社会でも『利他的に生きる』を支えるために」	単著	令和元年 12 月	日本福祉図書文献学会, 福祉図書文献研究第 18 号 pp.3-16.	他の動物とヒトへの発達を分けた人類進化の様々な過程での危機と克服へのコミュニケーションと人間関係の果たした役割、そしてその力についての諸説を整理し、脳の発達並びに構造と機能の解説から AI 化社会について推考し、これからの超高齢化社会や災害被災地などストレスフルな状況での人間の持つ生理的・心理的なレジリエンスである「内なる力」を刺激し、高揚する支援と環境づくりについて、コミュニケーション・自助と依存・自己肯定感、利他的行動・目的と手段の設定などをキーワードに、「生きる」を支えることについて考察した日本福祉図書文献学会全国大

				会での「基調講演」を内容としている。
44. 「社会構造の変革と人間関係」	単著	令和2年12月	一般社団法人日本人間関係学会機関誌「人間関係学研究」第25巻第1号 p.1	巻頭言にて変革期を迎えたこれからの社会における人間関係の構築と展開についての本学会の使命と責任について述べた。
45. 「社会構造の変革による新しい生活様式と人間関係」	単著	令和3年1月	一般社団法人日本人間関係学会「第28回全国大会研究発表抄録集 2020 pp.4-5.	「第28回全国大会—新しい生活様式と人間関係—研究発表抄録集 2020」のテーマについて、理事長挨拶として本学会のコミュニケーションと人間関係新たな視点の模索と考察・展開の必要性を述べた。
46. 「ポストコロナ社会に向かって」	単著	令和3年12月	一般社団法人日本人間関係学会機関誌「人間関係学研究」第26巻第1号 p.1	新型コロナ禍、自然災害の激甚化、エネルギー革命とSDGs及びAI化の大きなうねり中でのコミュニケーションと人間関係への本学会としての使命について述べた。
47. 「WithそしてPostコロナ社会における人間関係について」	単著	令和4年2月	一般社団法人日本人間関係学会第29回全国大会研究発表抄録集 2020 pp.3-4.	統一テーマである「WithそしてPostコロナ社会における人間関係について」の理事長挨拶と併せて基調講演において、時代変革の分岐点となる大きなうねりを受ける現在及びこれからの社会における社会環境と人類の進化の系譜並びに人類の危機の克服と阪神淡路大震災の復興過程の考察からコミュニケーションと人間関係について考察を試みた。
48. 基調講演「WithそしてPostコロナ社会における人間関係について」	単著	令和4年2月	一般社団法人日本人間関係学会第29回全国大会研究発表抄録集 2020 pp.5-6.	
49. 巻頭言	単著	令和4年3月	甲子園短期大学紀要 40号 p.1	記念すべき甲子園短期大学紀要第40号と重ねて学校法人甲子園学院創立80周年記念論文集の発刊に当たり、巻頭言として新型コロナウイルス禍、そして世界的気候変動及び政治・経済的不安定、更にはAI化による情報と生活の革新を背景とした大きな時代のうねりの中であって、新

				たな本学の教育特色及び ICT 教育を中心とするカリキュラム改編と教育環境の改善・整備により教育・研究成果の向上を期すことを宣明した。
50.「変革期の社会とは」及び「ご挨拶」	単著	令和4年12月	一般社団法人日本人間関係学会第30回記念全国大会プログラム・発表要旨集 pp.1-3.	現今の国際及び社会情勢から学会の全国大会テーマを「変革期の社会を考える-安全と安心のためのコミュニケーション-」とし、コミュニケーションと人間関係がいかにこれからの社会にあっても重要であるか、そしてその在り方について共に考える機会にしなければならない事を「大会挨拶」と事例を通した「基調講演」で訴えた。
51.「社会の変革と人間関係」	単著	令和4年12月	一般社団法人日本人間関係学会機関誌「人間関係学研究」第27巻第1号 p.1	ウイルス感染、地球温暖化や巨大地震等の自然災害の多発と激甚化、そして近代化に伴う脱炭素化問題や国際間の紛争、加えての AI 化による生活と行動様式は人間社会に変化・変革をもたらせることは必至で、その対応の基盤にはコミュニケーションと人間関係が重要であり、他者理解と利他的視点と行動が求められる。これからの共生及び多様性の優しい社会における新たなコミュニケーションについての研究と学会活動の必要性を訴えた。